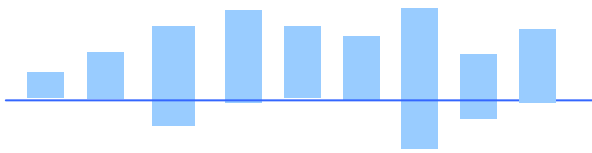


# ダルニー通信





## タイの奨学生数

# 2008 年度は 14,261 名

2008 年度は 14,082 名の中学生(昨年度 13,522 名)と 179 名の高校生(同 167 名) 合計 14,261 名が奨学金を受け、2008 年 5 月に新学年を迎えることができました。ご支援を有難うございました。

日本とタイでの募金分(3月末時点)

-学年	中 1	中 2	中 3	合計
奨学生数	4,025	5,036	5,021	14,082
学年	高 1	高 2	高 3	合計
奨学生数	86	47	46	179

## ラオス、アンバランスな経済発展

昨年後半、ラオス第 2 の都市パクセーを 2 度訪れましたが、ホテルの建設ラッシュに驚きました。巨大なショッピングセンターも建設中でした。もう 1 つ驚いたのは、パクセーから車で約 1 時間のところにある、世界遺産として名高い寺院ワットプーにタイからの観光客がどっと押し寄せていたことです。途中、小型フェリーで川を渡るのですが、大型ワゴン車が列をなしていました。訪れた村も経済発展の波に乗っていました。11 月に訪れた、パクセーから車で 2 時間半ほどの村では、2 年前にはまだなかった電線が引かれていました。それを家庭に引くのは個人負担なので、村でまだ 1 ~ 2 軒しか電気が入っていませんでしたが、その家に村人が集ってテレビを見ていました。翌 12 月に訪れた別の村は、コーヒー栽培による現金収入があるため最初の村よりやや豊かでした。それでパラボナ・アンテナを設置してテレビを見ている家庭がここ 1 ~ 2 年急増しています。

しかし、経済発展がアンバランスに進んでいると感じる面があります。例えば、後者の村で泊まったホストファミリーの家庭は、11 人の子どものうち 6 人をマラリアで亡くしていました。別の家



ラオス・サーランワン県の村人

庭もマラリアで子どもを何人が亡くしています。この村には各家庭にトイレがありません。トイレと洗濯と水浴びをする場所が同じ沼の場合、流れが淀んでいるためマラリアが発生しがちです。トイレがなく、きれいな水が不足する村に電気が入り、テレビを見る。しかもテレビの CM は都市部で流行する新製品の購買欲を掻き立てる・・・。

自給自足の生活で、わずかな現金収入しかない村にテレビや携帯電話などの電化製品が普及し始めると、現金収入を求めて出稼ぎが増えます。その中には、学校をやめて出稼ぎに出る子どもも少なくないようです。2006 年 7 月、バンコクの手袋製造工場で働いていたラオスの未成年者 17 名が救出されました。最年少は 12 歳、多くが 14 ~ 15 歳の女の子でした。朝 5 時から夜 10 時までの労働、休みは 2 週間に 1 日で、ノルマを達成しないとムチで打たれたそうです。外出はさせてもらえず、監禁状態でした。バンコクにはカンボジアからの物乞い者(その多くは女性や子ども)も少なくありません。

## 経済的自立に教育が不可欠

経済発展の大波の中で、地方の貧しい家庭がバラバラにならず、村も過疎化せず、かつ経済的貧困から抜け出すためには、地元で仕事を心得て収入を増やす必要があります。しかし、ラオスやカンボジアのような発展途上国の貧しい農村で経済的に自立して生活するためには、よほどの知恵と努力と村全体の協力がが必要です。そのためには、村人が自分と村の将来についてしっかり考える力を身につける必要があります。そして、それには教育が不可欠です。教育がなければ、思考力も判断力も身につかないからです。2008 年度ラオス・カンボジア奨学金の締め切りは 7 月 20 日です。今年度も引き続きご支援をよろしく申し上げます。

## 両親は「将来は医者に」と希望するが・・・

9歳のヘーはカムアン県ターケック郡にある小学校の2年生。5人きょうだいの2番目です。お兄さんは小4ですが、下のきょうだいはまだ学齢に達していません。家族には土地が無いので、お父さんが畑仕事や木を切り倒す仕事をして賃金をもらいます。年収は6千円くらいしかありません。村の他の家庭に比べても貧しい生活をしています。

ヘーは学校に行く前にご飯を炊き、皿を洗い、帰宅後は水汲みやきょうだいの世話、週末は小川で魚を捕まえたり、森で竹の子などの野草を見つけたりします。放課後、時間があれば、友達と遊びます。

算数が得意で学校をほとんど休まず、友達とスポーツをすることが好きなヘーの将来について、両親は「ヘーのためにも家族のためにも医者になってもらいたい。それがダメでもできるだけ勉強を続けてほしい」と思っています。



教室で勉強をするヘー（上）、放課後は水汲みが日課（左）

ラオス奨学金の締め切りは7月20日です

## ラオス事務局レポート

### 奨学金を申し込むラオス小2児童の生活と希望

ラオスの家族にとって子どもは労働力として期待されています。しかし、衛生環境や食糧事情が悪く、5歳未満で死んでしまう乳幼児がまだ多いため、できるだけ多くの子どもを生もうとします。その結果、家庭によっては、きょうだいが多いゆえに両親の乏しい収入では学校に通えない子どもが出てしまいます。

## 「学校に行きたい」と泣いて訴える

11人家族のデット（10歳）はお兄さんとお姉さんが1人ずつ、それに弟妹が6人います。お姉さんは幼いきょうだいの世話で学校に通いませんでした。38歳のお父さんは小学校を卒業しましたが、35歳のお母さんは村に学校がなかったので学校に行きませんでした。両親は畑を所有していませんが、収入はわずかで、食事の際、いつも家族が十分食べるだけのご飯を用意できません。

デットは学校に行く前にご飯を炊き、水を汲み、部屋の掃除をし、きょうだいの面倒をみます。時々、両親が家事をするために学校を休むよう



に言うと「学校に行く」と泣きながら訴えます。両親も心の底では、デットに出来る限り長く勉強してもらいと思っています。

デットのきょうだい。後列左から3人目がデット。左端がお兄さん、右端がお姉さん



### 両親は 1 日 1 ドルの収入、休日は食物探し

チーは 10 歳で 4 年生、5 人きょうだいの 4 番目です。両親は農作物（主に米）の収穫時期には畑で、その他の時期には建設現場などで日雇い労働をしますが、仕事がない日もあります。両親の 1 日の平均収入は 1 ドルをやや上回る程度で、ご飯が十分食べられない日もあります。家族は他人の土地に小さな家を立てて住んでいます。

チーは学校に行く前に草花に水をやり、家の掃除をします。放課後は家族の食事をつくり、食物がないときは外に探しに出かけます。休みの日も、おかあさんと食物を探しに出かけます。国語が好きな彼女は先生になることが夢です。その理由を尋ねると「人に知識をあげて、それがみんなの幸福になるから」と答えました。



両親ときょうだい。前列左がチー

### カンボジア事務局からのレポート

#### 奨学金で学校に通う小 4 の生活と将来の夢

WFP（世界食糧計画）の統計によると、カンボジアで栄養不足に苦しんでいる人口は 36%（460 万人）おおよそ 3 人に 1 人の割合です。農村部ではこの割合がさらに上昇します。そうした状況で、子ども達は勉強・家事をしながら、時間があれば森や川に行き、必死で家族の食糧を探します。

### 両親を亡くして、叔母さんだけが頼り

ダムニル（11 歳）は両親を亡くし、現在、叔母さんの家で祖父母、弟と 5 人で暮らしています。お父さんは交通事故、お母さんは弟を生んで 2 ヶ月後に死んでしまいました。祖父母の健康状態は思わしくなく、叔母さんの収入だけが頼りですが、日雇い農作業で 1 日 80 円程度。それで、ダムニルは学校に行く前に家の掃除と水汲みをした後、わずかな収入を得るために牛の糞拾いに出かけます。放課後は家族の食事や牛の世話。休みの日には森で薪や市場で売れそうな葉を採ったり、食べるための野草等を見つけたりします。

将来の夢は医者になること。医者になって家族の家計を助けたいと思っていますが、祖父母の健康状態を良くしたいと思っていることも、きっとその理由の 1 つでしょう。

### 祖父母や隣人からお金や米を借りる

奨学金で学校に通うチヴチューイ（10 歳）は 4 年生。6 人きょうだいの 3 番目です。両親は農作業の日雇い労働者ですが、収穫時期が終わると仕事を見つけるのが大変で、収入の無いときは食べ物も十分にありません。

チヴチューイの日課は水汲み、家の掃除、牛の世話、幼いきょうだいの面倒も見ます。休日は木を運んで煮炊き用の薪にします。お姉さんは遠距離にある繊維工場に勤めて、家計を助けています。それでも、食べ物がなくなると、祖父母や隣人からお金やお米を借ります。

チヴチューイの得意科目は国語。「将来、警察官になりたい」と夢を語りました。

### カンボジア奨学金の締め切りは 7 月 20 日です

医者になりたいダムニル（下）



木を運ぶチヴチューイ（上）

団体ドナー紹介

犬山国際交流協会  
合言葉は「誰にでも簡単に参加できる国際協力」

犬山国際交流協会のある、愛知県犬山市は国宝犬山城、国宝茶室如庵、木曾川うかいなど様々な観光名所があり、外国からのお客様も多く訪れます。

協会では、13のボランティアグループとともに協会員国際交流事業、国際理解事業、多文化共生事業、そして国際支援・貢献、環境保護事業を4本柱として日々様々な活動を行っています。

近年の課題としてクローズアップされている地球上の様々な環境問題やアジア・アフリカにおける食糧危機・伝染病そして様々な紛争に目を向け、昨年から新たな活動の第1歩として砂漠化防止植林活動に取り組み始めました。

また、これまで続けてきました書き損じのハガキ収集も国際支援・貢献事業を行う、「国際理解・協力グループ」を中心として活動を行い、市役所や国際センターなど市内各所へのハガキ回収ボックスの設置や、協会会報誌での呼びかけや市内の小中学校の協力など幅広く活動し、多くの市民の協力を得ながら進めてきました。

その結果として、2007年度は、1,700枚を超えるハガキを集めることが出来、2人の生徒に3年間分、2人の生徒にそれぞれ1年間分のダルニー奨学金を支援することが出来ました。

「誰にでも簡単に参加できる国際協力」を合言葉に、たくさん集めることも大切ですが、より多くの人にこの活動を知ってもらい広げていくこと、そしてタイの子どもたちが全員学校に通えるまで、継続していけるようにと思っています。



犬山市のマスコットキャラクターのワン丸君も参加。書き損じはがき回収箱の前で

協力企業紹介

社会貢献に対する社員の「意識」が格段に高まり、過去最高の寄付額に

三井住友海上火災保険株式会社 軽音楽部

私たち三井住友海上軽音楽部では、毎年2月に『バレンタイン・チャリティコンサート』を開催しており、去る2月16日に第13回目を無事に終えることが出来ました。チャリティですからチケット販売金の全額を寄付させて頂いたわけですが、今年の目玉は何といつても過去最高の93万円！を寄付できたことでしょうか。

12年前はまだ「CSR」という言葉もない時代。純粋に部の「ボランティア活動」として始めたイベントでしたが、今と比べますと非常に大雑把な運営で（笑）、当然チャリティとしても可愛い規模のものでした。その後、5〜6年前あたりからコンサートの宣伝にも手間隙をかけ、各役員が目標を持ってチケットを販売するようになり、ここ3年間の寄付金は、ナント30万円 60万円 93万円と大幅アップ！

この大成果の理由は：演奏が上手くなってきたからっ！ではなく、残念・・・、「意識」がキーワードであると感じています。

一つ目の「意識」は、私たち「部員の意識」です。各役員一人ひとりが目的を理解し、目標を大いに「意識」し、自己ベストにチャレンジしました。

そしてもう一つの「意識」は、私たち役員が声をかける職場の仲間、つまり「社員の意識」です。社員の社会貢献に対する「意識」が格段に高まっていることは、今回の活動中何度も肌で感じる事ができました。

来年は、今回の経験値に演奏の腕前をプラスして、「やるぞ100万円！！」



終了後、みんなで記念撮影！



実は今でもショーアップには凝ってるんです(笑)

## タイの元奨学生のお知らせ

# 元奨学生がお礼を言いたくて、タイ事務局に連絡

ロムダーオさん「中学校を1年で中退して働きに出た後、村に戻ったら、学校に市岡様からのプレゼントが届いていて…」

今年1月、タイ事務局(EDF)に「奨学金を提供してくれた方にお礼を言いたい」と元奨学生3人から連絡がありました。すぐに奨学金を提供したドナーの方に連絡し、元奨学生からのお礼のお手紙をお送りしました。以下は、そのうち、ロムダーオさんからの手紙と、それを受け取った市岡恵子さんからのお返事です。

## 長年の夢、イチオカ様に会うことができたなら・・・

イチオカ ケイコ様

こんにちは。

まず、何よりも最初に8年前に私の為に教育奨学金を援助してくださいまして本当にどうもありがとうございました。あまりの貧しさの為に中学1年生の前期しか勉強を続けることができずに他の学生がその後の奨学金を受けることになりました。私は、その後、他の県に出て働いていました。そしてルーイ県に帰省した際に学校の先生よりイチオカ様が私の為に学用品を沢山送ってくださったことを知りました。どうもありがとうございました。当時は、まだ13歳でした。あれから8年の歳月が過ぎました。その間、何度となくイチオカ様に連絡を取らせて頂きたく、帰省した際にもしかすると住所がわかるかもしれないと以前送って頂いたクリスマスカードを探したりしましたが、見つけ出すことができませんでした。



現在、私は21歳になりました。社会人のための定時制の学校に通い高校を卒業することができました。そしてソクラー県でアメリカンインターナショナル(AIA)という保険会社で秘書として働いています。この職場は、大学卒の社員を求めていましたが、私の能力を認めてくれこうして働いています。進学もしたいのですが、今のところは、まだ費用が十分ではありません。

今日は、とにかくイチオカ様が私の為に温かな援助を寄せてくださったことにあらためて感謝の意を表したくお便りさせて頂きました。本当にどうもありがとうございました。そして、いつの日か是非、イチオカ様にお目に掛かりたいです。お目に掛かることができなくてもせめてお話しができましたら、とても嬉しいです。もし、実現できましたら、長年の私の夢が叶うこととなります。あまり実物とは似ていませんが(実物の方がきれいです)、私の写真を同封させて頂きます。8年前の面影があるでしょうか。

最後にイチオカ様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

敬意の思いを込めて

ロムダーオ チャンタパッターより

ドナーだった市岡恵子さんからの返信

## 今の仕事、貴女の向上心と努力があつてこそ

ロムダーオ・チャンタパッター 様

今日は。

大変びっくり致しました。

もう8年にもなるのですね。貴女が御立派になられた事、本当に嬉しく思います。

又、写真を下さった事、ありがとう。

私がした事が少しでも貴女のお役に立てた事、でも最後迄できなかったのが少し残念でしたけれど、貴女の向上心と努力によって今の仕事につかれた事、きっとこれからも益々能力を發揮して進学も実現できると思います。

私もこの間、いろいろ有り、2000年12月に最愛の夫を亡くしました。今は子どもや友人に助けられ、元の生活に、そしてこの地で自分のできる事、人のお役に少しでも立つ様に、ボランティアのような事をしています。

私はまだタイには行った事はありませんが、テレビ等では見た事があります。お会いできるようになったら、すばらしいですね。でも私は日本語しか解りません。

さて「実物の方がきれいです」との事、きっと輝いて内からのすばらしさがある事でしょう。貴女のこれからの活躍と幸せをお祈り致します。

お手紙、ありがとうございました。

市岡恵子

### タイ・ラオス・日本の中学生による生活文化交流に参加した鈴木円香さん

### 国際ソロプロチミストアメリカ連盟「ヴァイオレット・リチャードソン賞」受賞

昨夏、タイ・ナコンパノム県で開催したタイ・ラオス・日本の中学生による生活文化交流に参加した鈴木円香さん(当時、厚木市立睦合東中学校3年)が、ヴァイオレット・リチャードソン賞を授与されました。心よりお慶び申し上げます。(ヴァイオレット・リチャードソン賞:ボランティア活動に励む若い女性を称える賞)

以下は、鈴木さんが同賞に応募した際の作文の一部抜粋です。

『タイでは大変貴重な体験ができました。(中略)設備も十分でなく行きたくても金銭的な問題で学校に行けない子ども達。それに比べて行きたくても心の問題や非行によって学校に行けない、行かない不登校とい



4月、東京で表彰式が行われた

う名の日本の現実を、私は率直に大変恥ずかしいと思いました。そして、私は、私達が行っている支援「ダルニー奨学金」がどのような意味があるのかを再認識しました。ラオスで訪問した、奨学金の支援を受けているゲルタウちゃん(7歳)の将来の夢は、小学校の先生になることだそうです。もちろん、その夢をかなえる



将来の夢を語るゲルタウちゃん

ためには小中高と通学する必要があります。「私達はその子の将来の可能性をつくり、夢をかなえるための支援をしているのだ。私達はきっとその子にとってはすごく大きな意味のあることができているのだ。」そう心から感じた時、ダルニー奨学金とはなんて素晴らしい活動なのだろうと、本当にこの活動を続けて良かったと思いました。(中略)私はこの活動や、ひと夏の経験を通じて、ボランティア活動をすることの喜びを再認識し、将来は国際援助活動ができる職業につき、発展途上国で貧困

に苦しむ、より多くの子ども達に援助したいと思うようになりました。それがどうしても叶えたい、今の私の夢です。そのために、支援する国にとって本当に役立つ人間になるための努力を続けていきたいと思います。今私ができることは、これからもダルニー奨学金を続けること、そしてタイで見たこと・聞いたこと・感じたことをたくさんのひとに伝え、さらに活動を活性化させることだと思います。自分のできることを一つ一つ積み重ねて行きたいです。またいつか、タイ・ラオスの友達に会える日がくるそのときまで…』

10 月研修旅行のごあんない

**ラオス・カムアン県への旅 7 泊 8 日**

10 月研修旅行ではラオス南部のカムアン県を訪問します。同県は、首都ビエンチャンから南に約 330Km 離れ、ベトナムとの国境山岳地帯とタイとの国境メコン川の上に位置しています。このたびは、タイのバンコクから空路でナコーンパノムに移動し、メコン川を舟で渡ってラオスに入国します。雄大なメコン川をはさんで、タイとラオスの対比もぜひご覧いただきたいと思います。

また、新規の奨学生を支援される方や同県に奨学生がいる方は、奨学生に面会できますのでふるってご参加ください（県内でも移動に多大な負担が掛かる場合は、面会できないこともあります）。



トタン板の校舎  
決して設備が整っていると  
は言えない校舎ですが、子  
ども達は学んだり遊んだり  
することが楽しいようです

**実施要領（予定）**

**日程**：10 月 18 日（土）～25 日（土）早朝、成田着  
**訪問地**：ラオス・カムアン県及びタイ・バンコク  
**参加費**：一人 180,000 円（成田からの往復航空券、団体行動時の全交通費・宿泊費・食費、通訳料、保険料を含む。但し、航空券に付帯する空港使用料、航空保安料、燃油特別付加運賃は含みません）  
他に、バンコク集合コースもあります。  
**資料の請求方法（8 月 20 日締切）**  
**郵便**：ご自分の宛先を明記し、80 円切手を貼付した返信用封筒を同封の上、事務局までご請求ください。  
**電子メール**：info@minsai.org まで、メールタイトルに「ラオス研修旅行」と書いてご請求ください。資料は電子メールで送信します。



歓迎会  
村を挙げての歓迎会では、歌や踊りの披露があります

**ラオスに関する本の紹介**

**「明日を紡ぐラオスの女性 暮らしの実態と変化のゆくえ」**

著者の風野寿美子さんは 2002 年にはじめてラオスの農村を訪れた際、少女も含めたラオス女性が懸命に働く姿に「衝撃的感動」を受けたそうです。そしてその後 5 回、ラオスを訪問し、彼女たちの働きぶりを見ましたが、その衝撃は変わりませんでした。村の女性が家族の生存をかけて「早朝から籠を背負って山に入り、水を運び、薪を集め、山菜を採り、家畜の世話をし、田畑で働き、家事全般をきりまわし、子供を生み育てる。その上、糸を紡いだり、機を織ったり、商品を用意して市場で商ったりもする」。風野さんは自らの観察と政府の統計を用いて、このような農村女性たちの日常生活や家庭内での役割を客観的に分析して「衝撃」の内実に迫り、更にラオスの変化を見据えようとしています。

ラオスの子どもに対しても、風野さんは鋭い目で観察しています。例えば、「圧倒的に少女の労働が多く、特に市場で働く少女の姿が目立つ」と述べ、その理由として日々を生きるのに精いっぱいであるから、母のように早く結婚し、子どもを生んで労働力を確保し、血縁関係に基づいた女性のネットワークをつくって貧しい生活を生きぬいていく、その結果として不就学や退学になると述べています。しかし同時に、保健医療施設へのアクセスの悪さなどによる妊産婦や乳幼児の高い死亡率、さらには教育の有無と出産率のデータなどを使って、多産や早期出産をせざるをえない農村部女性たちの厳しい環境も丁寧に分析しています。

このような分析に基づき、では風野さんはラオスの将来をどのように見ているのでしょうか。ラオスの従来の自給自足型の農業では現代の技術革新の変化に対処するのは困難であり、生活レベルを上げるため子どもに教育を受けさせようとする親の意識の変化について触れています。そして「あとがき」で、若い世代の女性たちが農村部の長期にわたる変化のない貧困生活を離れ、伝統的な巻きスカートを脱いでジーパンに着替え、新しい機会を求めて（都市部に）出て行くだろうと予測しています。風野さんはダルニー奨学金を支援しています。



めこん社  
2007 年 9 月発行  
2500 円 + 税



ラオス高校教師修士留学事業 (TTM 事業) 近況報告  
**08 年度入学の第 4 期生 5 名への  
 オリエンテーションを実施**

日本民際交流センター 代表 秋尾晃正

コーンケーン大学大学院に 2008 年度入学予定の第 4 期生 5 名への留学に向けてのオリエンテーションが 2 月 9 日、10 日、ピエンチャンで開催されました。

オリエンテーションには、修士課程を卒業した第 1 期生 4 名、ラオス国立教育科学研究所勤務で TTM 奨学生の選考委員でもあるサヤ博士、民際ラオス事務局から 3 名、それに私、秋尾が参加しました。まず TTM の目的でもある「教科書に沿った教師用マニュアルの作成」のための人材育成について討論が行われ、現在、ラオスで使われている小学 1 年から中学 3 年までの教師用マニュアルについて、次のような問題点が指摘されました。

教科書と教師用マニュアル両方の記載内容に多くの間違いがあり、教育の現場で混乱や問題が生じている。(4 期生たちが指摘)

国際機関からの予算で作成された現在のマニュアルは、適正なものを作成する資質を持つ人材がいない状況で作成されていた。

高等学校の教師用マニュアルは、いまだに作成すらされていない。

活発な討論を経て、「適切な教科書や教師用マニュアルは、コーンケーン大学で修士を取得した TTM の先輩、後輩が一丸となって協力して初めて作成が可能になる。4 期生も含め自分たちが作らなければ、誰に作れるのか」という決意が全員で確認されました。

修士課程を修了した 1 期生の内、3 名は既にラオスの各種教育機関での勤務を開始しており、内 1 名は国家教育調査研究所に配属されて現場の先生方に教授法を教え始めています。しかし 1 期生たちが各機関でバラバラに活動しては確かな成果を得難い上、教育省の人事や新たな政策を待っていても仕方ありません。TTM の奨学生たちが自ら、より能動的に活動を開始する必要があるとの結論が導かれ、討議は熱意と使命感に満ちたものとなりました。

1 期生たちは、早速、その場でグループを結成し、まずは教師用マニュアル作成のための基礎調査の実施が決められました。実行課題として、現状の教科書と教師用マニュアルの問題点の整理、日本とタイの教師用マニュアルの比較研究などが挙げられ、そ



前列が 4 期生、後列が 1 期生

の口 - ドマップを 1 期生が作成することになりました。ラオス教育界の有能な人材不足を痛感し、TTM 事業に大きく期待を寄せるラオス教育省の副大臣は、後でこのグループの話しを聞き、「グループの規模が整い、機能し始めた際には、教育省の核になる人材を投入していきたい」と談話を述べられました。

第二に、留学先の修士課程における学業面の課題などが説明されました。使われる文献の 80% 以上が英文であることから、英語の克服は不可欠です。当初 1 期生は英文資料を一語一語、タイ語の辞書を引いて翻訳し、英語とタイ語を同時に習得していきました。このような苦労が後に実を結び、1 期生たちは専門用語を完全に身につけることができました。

現在、コーンケーン大学には大学生も含め約 200 名の留学生在籍し、その内 120 名がラオス人です。TTM 奨学生について 1 期生が語る次の言葉は我々の胸に強く響きました。「他の奨学金による留学生には共通の使命感も卒業後の連帯感もない。私たち TTM 奨学生は先輩・後輩が一丸となってラオスの教育に貢献する使命を背負っている。ラオスでは決して学べないことをコーンケーン大学では学べる。留学中、貪欲に知識・教養を身につけて欲しい」。

TTM 事業で修士を取得した人材がラオスの教育機関に 20 人、30 人と蓄積されれば、ラオスの教育改善を推進する力強い原動力になるとの確信を新たにしました。

**2009 年度コーンケーン大学大学院に入学する  
 第 5 期生へのご支援のお願い**

奨学金 (学費及び生活費など) の金額は年間 (1 回) 75 万円で修士課程入学から修了までの 3 年間で継続してご支援いただきます。(総額 225 万円) 詳しい資料のご請求は事務局 (担当: 横山、本田) 2009 年度資料請求の締め切りは **2008 年 8 月末日**です。

**TTM 事業とは?**

ラオスの現役高校教師から優秀な人材を選抜し、タイのコーンケーン大学大学院に留学させてラオスの教育水準の向上を担う人材を育成する事業。

書き損じはがき支援校の取り組み

奨学金支援を通じて、息の長い草の根の国際交流を目指して

千葉県習志野市東邦大学付属  
東邦中学校教諭 小村卓司

1997 年から個人的にダルニー奨学金のドナーを続けていた私でしたが、2003 年暮れに奨学生はどんな子なのだろう、ぜひ会ってみたいなと思い立ちました。国際センターのご協力で、ノンカイ県のバン・ノン・フー・フォイロム校という小さな学校を訪問し、貧しいながらも純真な奨学生に会いました。日本人にとってみればちょっとしたことなのですが、それがこの地の子どもにとってみれば、一生を左右する出来事だということが実感できたのです。これを日本の恵まれた子どもたちにも知ってほしいということから、学校での書き損じはがきキャンペーンに取り組む動機となりました。

そして 2006 年度から本校では書き損じはがきキャンペーンを始めました。まずは自分の学年からということで中学 1 年生を中心に「書き損じはがきを収集して進学したくても進学できないタイの子どもたちに学資を提供しよう」と生徒・保護者・教職員呼びかけて、運動を始めました。やはり年賀状の書き損じが中心となります。従って年が明けた 2007 年 2 月に集計してみると、3 人の 3 年間分の学資にまでなっていました。

そして 2007 年度には生徒会を中心に学校全体で取り組むことができるようになりました。そして 2008 年 2 月の集計では 4 人の 3 年間分になりましたので、この運動は浸透してきたのではないかと考えています。

これが縁となったのでしょうか。ダルニー奨学金 20



花束を受け取るダルニーさん(真ん中)とツェンチャイさん(左)

周年に、本校にお声がけをいただき、ダルニーさんとツェンチャイさん(奨学生第一期生)の来校を実現できました。生徒たちと昼食を一緒に食べていただいてから、最初に書き損じはがきに取り組んできた中学 2 年生にお話をいただきました。ダルニーさんからは「ダルニー奨学金によって今夢を実現できている」という話を真剣に時には涙を浮かべながら、生徒に語りかけていただきました。ツェンチャイさんは「奨学金が決まったときの嬉しかった気持ちと今は英語の教師として貧しい子どもたちのために働いている」ということを生徒に語りかけていただきました。お二人の話は生徒に強い感動を与えていただき、これからの生徒の人生に大きな影響を与えていただいたものと心から感謝いたします。

これからも書き損じはがき収集による奨学金支援を続けていきたいと思っていますし、奨学生と本校の生徒との交流を文通などで図っていければと考えています。息の長い草の根の国際交流ができればとても意義のある運動ではないでしょうか。

サワディー 国際ボランティアです

アジアの子ども達のために手足を使って

亀津房子 澤山静枝

「民際」へお邪魔するキッカケになったのは、3 年前カンボジアに旅した時に、私たち観光客に「1 ドル 1 ドル!」と言ってスカーフを売りつける年端も行かない子どもたちを見た時のショックからです。でもそのスカーフを買っても何の解決にもならない、買うという行為すら何か富める国の者の傲慢さのような気がして・・・そんな折、「まずは就学を」という民際の主旨を知り、何かお手伝いできればと事務所を訪ねました。嬉しいことに今は幼馴染の澤山さんと一緒にです。澤山さんも私も可愛かった(?) 小学生時代から年齢を重ねて、今では十を聞いても半分くらい忘れてしまう私たちですが、「脳トレ」の為に指先を使い、書き損じはがきの枚数数えのスピードアップを目指しながら、楽しくやらせて頂いています。(亀津)



澤山さん(左)と亀津さん(右)

亀津さんから、就学出来ないアジアの子ども達のための活動をしているというお話を 1 年程前にお聞きしました。その頃、我が家では、子ども達もそれなりに自立し、私の両親も主人の両親も亡くなっており、何かしなければと思っていたところでしたので参加いたしました。今まで募金などはしていましたが、自分で実際に手足を使ったお手伝いをするのは初めてで、あまり手際の良い方ではありませんが、スタッフの方々にご指導頂き今にいたっております。これからも、多くの皆様の善意をアジアの子どもたちの手元に届けるため、少しでもお役に立てればと思っております。(澤山)

甲府ドナー連絡会:4月5日、山梨英和中学校の会議室で4年ぶりに9回目のドナーの集いを開催し、18名の方が参加されました。

今回は今年の8月に民際センターが実施した3カ国中学生交流事業に参加した山梨英和の



3人の生徒がスクリーンに写真を映しながら、タイ・ラオスの中学生と議論したり村で共に生活したりした貴重な体験や感想を発表しました。また、県立ろう学校の生徒は書き損じハガキ収集について報告。さらに昨年、ラオスの校舎建設の寄付をされた山梨県在住の長澤邦夫さんが同国で贈呈式に参加された際の写真をスクリーンに映しながら、現地の教育事情について説明しました。(世話人 榎本富美子)

新潟ダルニー連絡会:3月20日、新潟県初の「タイ王国フェア」が某大手デパートで開催され、駐日タイ大使夫人のご列席の開会式に呼び出されました。

OTOP(1村1品)の品々、タイ舞踊、文化紹介など華やかな雰囲気の中、1人だけ緊張気味の越後世話人。微笑みの大使夫人の後に続き、引きつった笑顔でスピーチです。キーワード「国際・奨学金・イサー



右端が赤石氏、左隣の青い服の女性が大使夫人

ン」を何度も盛り込み、その後、大使夫人にEDFの出来立てパンフをお渡し、無事特命任務を果たしたのでした。ああ、疲れた・・・。(世話人 赤石隆夫)

マザーテレサの会:私は公務員で、去年から職員互助組合の雑誌に募集記事を載せています。去年はハガキ516枚、テレカ56枚等が集り、Cタイプでタイ・ラオス各2名を支援できました。今年は3月現在、ハガキ470枚、テレカ37枚と苦戦中ですが、「去年は送りそびれ、今年、去年の分とあわせて送ります」「子ども達が学校に行ける一助になれば幸いです」という寄付者の言葉と、毎年、現地の子どもたちに会えることに励まされています。(世話人 東矢高明)

## 連絡会ニュース

ダルニーDANKAIの集い:

4月7日、事務局近くの大隈記念タワーで会合を開き、新たに加わ

ったメンバーも含めドナー7名と民際事務局から3名が参加。自己紹介の後、民際の20周年記念ビデオなどを見、その後、同集いに対する抱負や今後の活動に対する意見交換を行いました。参加者からは「現役時代の自分の世界にあまりの狭隘を感じ、現在、3つの国際協力団体を支援」

「いじめなどの社会問題に対し、我々の支援している子どもたちの実情を伝えることで緩和の効果が期待できるのでは」等の意見が出ました。次回



開催は7月予定です。(世話人 井波信一)

### 第8回ダルニードナー全国連絡会議

さいたま市で初開催、ドナーの皆さん!武蔵野に集合!

第8回ダルニードナー連絡会全国会議がさいたま市で開催されます(主催は「さいたまダルニー連絡会」)。会場は浦和の中心地、別所沼会館の予定です。教育支援のあり方や活動の様子、体験談を気楽に語り合える場にしたいと思っています。

開催日:2008年9月27日(土)

会場:別所沼会館(048-861-5291)駐車場あり

開会:13:00~17:00(開場12:00)

参加費:1,000円 休憩時ドリンク付き 浅見安二郎ハーモニカ演奏予定

懇親会:18:00~20:00(希望者のみ4,000円)

締め切り:9月12日(金)

申込先:民際センター事務局

交通案内:JR埼京線

「中浦和駅」より徒歩5分またはJR京浜東北線「浦和駅」西口のバス6番乗り場より北浦和西口行き



(大戸経由)乗車「別所沼会館前」下車徒歩1分または徒歩約20分。タクシーなら6分。同会場には宿泊施設あり(遠方の方優先)。1ヶ月前までに申し出て下さい。周辺には鉄道博物館、ジョン・レノンミュージアム等があります。